

KURASHIKI CENTRAL HOSPITAL

# K NEWS No.31 2017.4

## Close-up

がんに対する  
当院薬剤部の取り組み



この冊子は、倉敷中央病院をご理解いただくとともに、皆さま方とのコミュニケーションをはかるためのものです。皆さまと当院を結ぶかけはしとなるように、「Kニュース」と名付けました。

**倉敷中央病院** ■患者本位の医療・全人医療・高度先進医療■

## 薬剤師

医薬品の調査や調剤、製造などを行える国家資格で、当院では約100人の薬剤師が在籍しています（2017年4月時点）。医師の処方箋による調剤業務がイメージとして先行されている方もいらっしゃると思いますが、薬剤師の業務内容は多岐にわたり、当院では以下の4つのグループに分かれています。

### ◆病棟薬剤グループ

病棟に常駐し、患者さんの薬物療法の確認や病棟の薬品管理、服薬指導を行います。患者さんの訴えや症状に基づき、医師へ薬物療法を提案するなど、多職種とも連携しています。

### ◆注射薬調剤・薬品管理グループ

抗がん剤などの注射薬調剤と麻薬管理を行っています。化学療法センターでの服薬指導やレジメン管理など、医師や看護師らと協力して患者さんが安心して治療を受けられるよう支援しています。

### ◆調剤・製剤・薬品試験グループ

外来・入院処方箋による調剤業務を行っています。外来患者さんの服薬指導や副作用アセスメントを行うほか、院内製剤を調製する製剤業務や、薬物の評価・解析も行っています。

### ◆薬品情報・業務グループ

医薬品情報や院内採用医薬品の副作用情報などを収集・調査し、医師や薬剤師、外部団体の医薬品医療機器総合機構などへ情報を提供しています。

これらの業務の中から、今回のKNEWS No.31では、当院薬剤部が取り組むがん患者さんへのサポート内容に焦点をあててご紹介します。

## CONTENTS

|                                                                   |    |
|-------------------------------------------------------------------|----|
| 薬剤師について                                                           | 3  |
| クローズアップ<br>がんに対する<br>当院薬剤部の取り組み                                   | 4  |
| トピックス<br>わが街健康プロジェクト。<br>ー昨年が続いて2回目の<br>ポスター展を開催、<br>力作93点が集まりました | 9  |
| ヘルシーリビング<br>外科<br>医長 大目 祐介                                        | 12 |
| 肝臓がん手術のはなし                                                        |    |
| 倉中探検隊<br>3Dプリンター                                                  | 14 |
| 院内散歩<br>温室                                                        | 16 |
| 倉敷いいとこさがし<br>倉敷名物土曜夜市                                             | 18 |
| 当院からのお知らせ<br>お便り募集                                                | 19 |
| 祝日の稼働について                                                         |    |



医療技術は日々進歩しており、新薬の開発も進んでいます。高度医療分野では薬剤師の専門性も求められており、当院でも専門分野に進む専門薬剤師や認定薬剤師が増えています。このページではがんの認定薬剤師をもつ当院スタッフの大熊さんと松本さんに認定を目指した理由等をインタビューしました。

入院・外来両方の患者さんのがん化学療法のレジメン監査や調剤も行います。

#### ◆ 普段の業務ではどのようなことを心掛けていますか？

**大熊** 患者さんの中には困ったことがあっても、言い出せずに我慢されている方も多くいらっしゃいます。患者さんにまず一人の「人」として信頼してもらえるような医療者でありたいと心掛けています。

**松本** 正確性と確実性、そして、この薬剤・処方に向こう側に患者さんがいることを意識していますね。

#### ◆ 今後の目標を教えてください。

**大熊** 認定薬剤師の資格を持っているスタッフだけではなく、当院すべての薬剤師が地域の皆さんに頼りにされるようなチームをつくりたいですね。

**松本** 外来化学療法センターの患者さん全員への関わりは、まだ十分とは言えないです。小さな悩みはあるけど言い出せない、そんな患者さんの声を拾い上げ、より安全で安心できる外来治療を提供できればと思います。

#### ◆ 患者さんに一言。

**大熊** 「こんなことを聞くのも申しわけないな」と思わず、どんなことでも不安があれば聞いて下さい。私たちは患者さんから色々相談していただけることを嬉しく思っています。

**松本** 少しでも気になることがあれば、遠慮なく聞いて下さい。一緒に治療を進めていきましょう。

### 先輩薬剤師より

徳田衡紀・がん指導薬剤師

薬剤師は、患者さんの生活の質の向上に貢献する責任を持ってがん薬物療法に携わっています。

日頃から患者さんと真摯に向き合ってきた姿勢が認められたからこそ、このような認定を取得することができたことを忘れず、精進しましょう。



### 認定薬剤師

薬の専門家として広範にわたる知識と錬磨された技能を備えた薬剤師を社会に輩出し、高度化する医療の中で良質かつ安全な薬物療法の提供と、医療薬学の普及向上を図ることを目的としている。感染制御、糖尿病薬物療法、在宅療養支援など数多くの領域で認定制度がある（日本医療薬学会より）。



当院薬剤部キャラクター  
「らくすりくん」



**松本 浩明**  
外来がん治療認定薬剤師



**大熊 沙代子**  
がん薬物療法認定薬剤師

#### ◆ 認定薬剤師を取得した理由は？

**大熊** 病棟で服薬指導をする際、患者さんのより良い治療の役に立ちたい、相談に対して色んな選択肢の回答を持ち合わせた医療者でありたいと思ったのがきっかけです。

**松本** 外来では患者さんに関われる時間が限られています。自宅で普段通りの生活が送られるように、的確な対応をスムーズに行いたいと考え、資格取得を目指しました。

#### ◆ 仕事内容を教えてください。

**大熊** 現在は消化器病棟の入院患者さんの服薬指導を担当しています。他には、がん患者さん面談時の副作用チェックシートの作成や、原発不明のがん患者さんの症例を多職種で検討するオンコロジーボードに参加しています。

**松本** 外来化学療法センターでの服薬指導のほか、注射薬調剤室で、入院患者さんのための注射薬を準備して病棟へ届ける「払出」や、点滴薬剤を混ぜる「混注」業務を行っています。

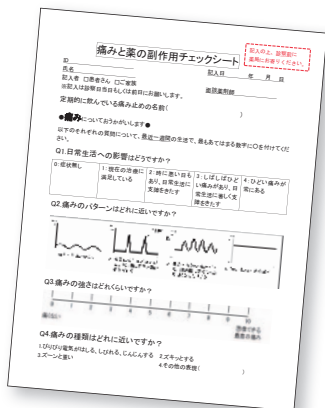
## 医療用麻薬とは

有効性・安全性が確認されている国が承認したお薬です。痛みを伝える神経や痛みを感じる脳の部位に作用して、痛みを和らげます。痛みのある患者さんに適切に使用すれば、安全で効果的であることが分かっています。世間でイメージされやすい、覚醒剤や大麻など、快楽を得るために乱用される薬物と医療用麻薬は別物です。実際に使用されている医療用麻薬は「オキシコドン」「モルヒネ」「フェンタニル」といった成分になります。



### 担当薬剤師から一言

医療用麻薬をはじめ様々な薬を外来通院中に服用し始めるケースが増えており、薬の自己管理は複雑になっています。「薬の数を増やしたくない」「副作用が心配」などの理由で、痛みや身体症状を軽減するためのお薬を活用できないのは残念に思います。安心してお薬を服用していただけるように、薬剤師を身近な存在として相談していただきたいと思います。



医療用麻薬の国内使用量は年々増加しており、15年前と比較すると5倍以上となっています（2014年厚労省調べ）。当院でも、がんによる痛みをとる目的で早期から使用される方が増えています。これは、以前に比べ「痛みは我慢しないほうがよい」という考えが普及したからです。しかしながら、麻薬という言葉から、中毒や最期の薬といったイメージをもち不安に思われる方がいらっしゃいます。その不安から、服用を止めたり、頓服薬をうまく使用できなかったりして、痛みを我慢してしまうケースが見受けられます。

また、医療用麻薬は、軽微な副作用を生じることが多く、痛みに合わせて量を調節することと合わせて副作用対策のお薬を調節することが大切です。薬の調節には患者さんからの聞き取りが非常に重要ですが、診察室での時間は限られています。そこで、診察前の待ち時間を利用して患者さんと薬剤師が面談し、その内容によって鎮痛剤の増量や減量、副作用予防薬を医師へ提案したり、お薬に関する疑問を解消したりするなど、患者さんのサポートを行なっています。

患者さんの医療用麻薬に対する不安を  
薬剤師がサポートしています

医療用麻薬の診察前面談に関するお問い合わせは「1-17窓口」でお声掛けください。





## わがプロの活動テーマ

- ① 医療機関と上手に付き合う
- ② 病気の予防と健康維持
- ③ 倉敷をもっと好きになる

昨年、岡山県立大  
を幅広い世代に広  
めることを目指し  
たPRポスターの  
作成を岡山県立大

が参加されました。

「医療機関と

上手に付き合う」

を幅広い世代に広

めることを目指し

たPRポスターの

作成を岡山県立大

「わが街健康プロジェクト」の第14回講演会が2月17日、倉敷市民会館であり、倉敷市を中心に226人の市民が参加されました。

## わが街健康プロジェクト

学、川崎医療福祉大学のデザイン系学部の学生に呼び掛け、集まった力作93点を会場に展示しました。昨年の応募数49点から大幅に増え、さまざまなコンセプトの作品



グランプリ作品

が会場を彩りました。サポーターは「住民と医療機関をつなぐハートが印象的で、わがプロの目的にあっている」「温かみを感じる色調が良い」などとお気に入りの作品に投票しており、最多得票を獲得した「サポーター賞」が決定しました。

3月9日に



## 注射抗がん剤の自動調製ロボットを民間病院で初めて導入しました

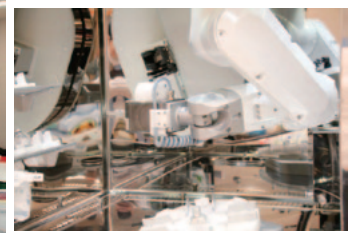
当院薬剤部では4月より、日本では2例目、中四国以西・民間病院では初となる注射抗がん剤の自動調製ロボット「APOTECACHemo」が稼動しています。



抗がん剤による治療を必要とする患者さんは年々増加しています。抗がん剤は患者さんの状況に応じた正確な投与量の調節が必要です。今回の導入により調製過誤が防止され、患者さんへの安全・安心な薬剤の提供がさらに強化されました。



APOTECACHemo本体



ロボットアームが機器の中で調製します

また、抗がん剤は正常な細胞にも影響するため、人手で調製するには色々な危険を伴います。しかし、無菌環境の中でロボットが調製することで、正確で安全な抗がん剤を提供できるようになり、患者さんだけでなく医療スタッフの安全確保にも寄与しています。

当院の理念である高度先進医療の実践を支える最新機器が、また一つ充実しました。



竹馬先生

楠本先生



は制作した学生や指導教官らを招いた表彰式を市民会館で開催しました。展示中は学生と事務局スタッフで、医療機関と上手に付き合うことの重要性や、作品のポイントなどを意見交換しました。共催医療機関でテーマに対する表現力やデザイン性を検討して決定した最優秀賞には、「病院との上手な付き合い方に

ついて考えるきっかけとなるような作品にしたい」との想いを表現した岡山県立大学デザイン学部の大槇美穂さんの作品を選出しました。ポスターは今後、講演会場や共催医療機関に掲示します。ぜひご覧になってください。

### 第14回講演は胃がんと大腸がんの検診・治療について

児島中央病院健康増進センターの楠本舞先生は、内視鏡検査の画像などをスライドで示しながら「早期発見・早期治療は、身体的や経済的な負担や治療時間を少なくすることができると説明。生活習慣や食生活の改善で発がんリスクを抑えられるとし、食事は腹八分にしたり野菜や海藻、豆や豆

製品を食事に取り入れれたりするなど生活習慣病の予防に努めましようと呼びかけられました。

チクバ外科・胃腸科・肛門科病院の竹馬彰先生は早期がんに対する内視鏡治療について、粘膜切除術（EMR）の手技内容をイラストと写真で紹介。「定期的に検診を受けて早期発見を心がけ、異常があればかかりつけ医を受診する。必要時にはかかりつけ医に専門の医療機関を紹介してもらうようにしましょう」と、地域の医療機関が役割分担していることも紹介されました。

第14回の参加人数は過去最多で、講演後には「健診はどれくらい頻度で受けるのがいいのか」など多くの質問がありました。

うにした」と書かれてありました。今後もわがプロのテーマが広がるように活動を続けていきます。興味を持たれた方、ぜひ会場へお越しください。

血糖値測定や各種相談コーナーを設けた「健やかブース」も講演会当日の13時から50分間開催しています。当院や共催医療機関、公民館などに配置しているチラシが申し込み用紙となっております。問い合わせはわがプロ事務局（倉敷中央病院地域医療連携室・TEL 086-422-5218）までご連絡ください。

次回から児島聖康病院が加わり、共催医療機関は22施設となります。第16回講演会は8月29日（火）の開催を予定しています。詳細は次回7月に発行するNEWS32号でお伝えします。

これまで講演会に6回以上参加されているサポーターのアンケート用紙に、「かかりつけ医をつくり、必要時のみ大病院にかかるよ

### わが街健康プロジェクト。

次回第15回講演会は  
2017年5月23日（火）14:00～  
倉敷市民会館 大会議室2F

参加無料

#### 講演① 「楽しく今を生きるために」

倉敷リバーサイド病院 人工関節センター センター長 川口 洋 先生

#### 講演② 「ウォーキングで健康づくり」

玉島中央病院 健康運動指導士 影山 尚也 先生



わが街健康プロジェクトの活動については、公式ホームページで確認することができます。こちらのQRコードを読み込めば、直接ページへつながりますので、ぜひご覧になってください。

#### わがプロカウンター

|                                 |        |
|---------------------------------|--------|
| 参加延べ人数                          | 2,657人 |
| ブロンズサポーター<br>(講演会3回参加)          | 205人   |
| ゴールドサポーター<br>(講演会6回+ミーティング2回参加) | 90人    |



## 肝臓がん手術のはなし

外科

医長 大目 祐介

## 肝臓がんの原因は？

まず、肝臓について説明します。肝臓は腹部の右上に位置する最大の臓器で、代謝や解毒、体に必要な蛋白の合成、胆汁の生成・分泌など機能も多いです。肝臓は少し切り取られても再生できるなどの特徴もあります。しかし、何らかの原因で慢性的に炎症が起きたり、切除される肝臓の範囲が大きくなったりすると、肝臓の機能が低下し、

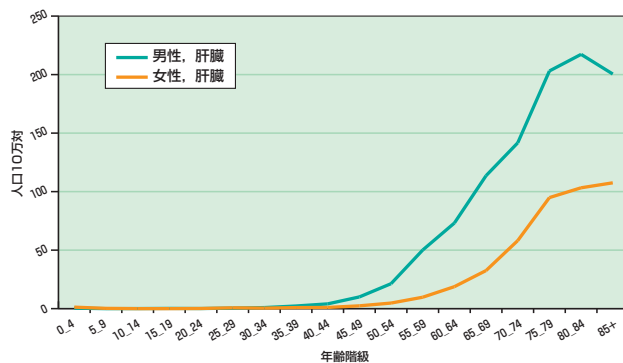


臓は少し切り取られても再生できるなどの特徴もあります。しかし、何らかの原因で慢性的に炎症が起きたり、切除される肝臓の範囲が大きくなったりすると、肝臓の機能が低下し、

さまざまな異常が起こりえます。

肝臓がんは主要な発生要因が明らかになっているのが、過去に輸血や集団予防接種などで感染が問題となった肝炎ウイルスです。B型とC型が、がんを引き起こすとされていますが、C型については有効な治療薬が開発され、ほとんどが完治するようにになりました。飲酒によるアルコール性肝障害や肥満などによる脂肪肝が、最近は増加傾向となっています。

年齢別のがん罹患率は、男性では40歳代後半、女性は50歳代後半から増加し始めています。罹患率と死亡率は、男性のほうが高く女性の約3倍となっています。罹患数と死亡数の差が小さく、難治性のがんの一つとされています。全国がんセンター



年齢階級別 罹患率 (全国推計値) 2012年  
資料：国立がん研究センターがん対策情報センター

協議会が発表した肝臓がんの10年相対生存率は、症例数2,113に対して16・4%でした。

## 治療方法は？

まずは肝臓がんの疑いがあれば、超音波やCT、MRIなどの画像検査と腫瘍マーカーによる血液検査を行うことが一般的となっています。

手術が可能であれば、手術による病変の除去が最も有効な治療です。肝臓の機能が著しく低下している場合は手術が困難であり、がんの個数や場所などを考慮しながら、ラジオ波治療や肝動脈塞栓療法など内科的治療を行います。

## 最近、腹腔鏡手術が増えていると聞きます

腹腔鏡下肝切除術の保険適応術式

が拡大し、大きな肝切除に対しても腹腔鏡手術が可能となったため、腹腔鏡手術は増加傾向です。腹腔鏡を用いた場合の利点としては、手術操作部位を拡大して視認できるので、精密な手術が可能で、出血量も大幅に減らすことができます。開腹手術と比べて傷も小さく術後の回復も圧倒的に早いので、平均1週間退院可能です。

## ほかの治療方法は

ラジオ波焼灼術は、ラジオ波電流を腫瘍の中に流して、病変を焼灼させます。また、冠動脈塞栓療法は、がんに栄養を運んでいる血管を人工的に塞ぎ、がん細胞を死滅させます。どちらも手術より負担が小さいことは確かですが、ラジオ波焼灼術は病変の位置によっては実施できず、

個数が多い病変、ある程度以上大きな病変には適応となりません。肝動脈塞栓療法は個数や位置にそれほど関係なく施行でき、肝機能が極めて不良な症例にも適応となりますが、根治度は手術やラジオ波には劣ります。早期発見での手術が、根治につながります。

## 早期発見のためには？

肝臓は「沈黙の臓器」と言われ、自覚症状が出にくいいため、異常に気付いた時には症状が進んでいることがほとんどです。肝臓がんは検診で偶然発見されたり、他の病気で受診した際に見つかったりすることがしばしばあります。ウイルス検査は有効で、日常生活では食習慣や生活習慣を見直し、肥満にならないように注意することも大切です。

## 倉中探検隊



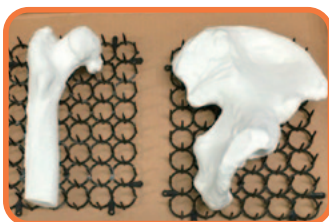
4 模型に付着している石膏の粉を落とします

そのままでは脆いため、特殊な接着剤で表面を固めます

5



6 作成された模型を医師に届け、手術の練習や患者さんへの説明に利用されます。

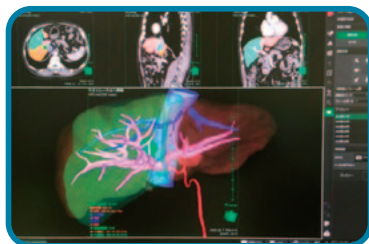


## Q. どんな診療科で使われていますか？

山本 室長： 整形外科や耳鼻咽喉科・頭頸部外科、形成外科が多いですね。1ヶ月あたり、約10件作製しています。

## Q. 模型のほかにも3Dを使った支援はありますか？

山本 室長：  
3Dラボ室では骨や血管、腫瘍などの位置関係が把握できる、右図のような3次元画像も作成しています。手術室とも連動しており、術中支援も行っています。



## 3Dプリンター



山本 浩之 室長

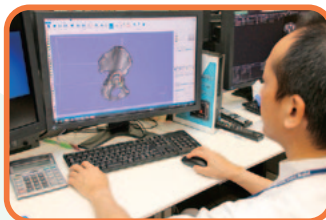
業務用から家庭用まで、幅広く販売されるようになった3Dプリンターですが、当院も医療用の3Dプリンターを1台所有しています。

「なぜ病院に3Dプリンターがあるのか？」を、山本浩之・CT検査室長に聞きました。

## Q. なぜ3Dプリンターが病院に？

山本 室長： 手術支援のためです。手術する部位の実物大模型を使い、医師が事前に手術のトレーニングをします。実際に模型を削るなどして手術のシミュレーションができるため、患者さんの安全につながっています。

## Q. どうやって作るのですか？



1 作製部位のCTデータを基に設計します

3Dプリンターにデータを送ると、6～12時間で石膏の模型が作製されます

2



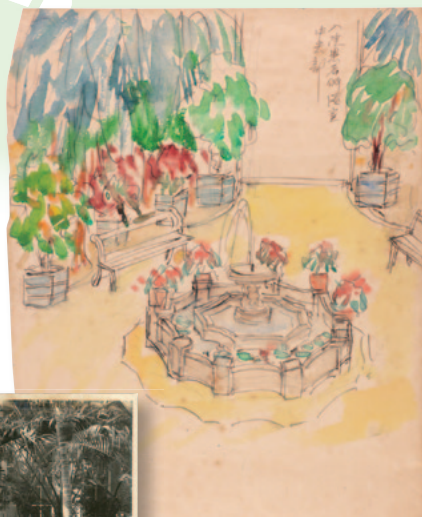
3 石膏を吸い上げると作製部位の模型が姿を...





温室のデザイン画▶

▼ 創立当初の温室



▼ 現在の温室



今回は、当院のシンボルともなっている温室をご紹介します。創立のときから外来患者さん用と、入院患者さん用のふたつがありました。外来患者さん用は、身体の痛みや精神的な悩みで沈みがちになる気分をお慰めするために、また入院患者さん用は、入院時の退屈なひとときを楽しんでいただくために、創立者・大原孫三郎が、大原美術館の絵画を収集した児島虎次郎とともに設計したと言われています。

現在の温室は昭和57年に作られたもので、ピンクの苞葉が美しいブーゲンビリアやとっくり椰子、マニラ椰子など、約20種類の熱帯植物を植えています。

噴水は、旧入院患者さん用の温室にあった型を、1.5倍の大きさに復元しました。支柱の部分に掘り込まれた「OHNE WASSER KEINE LEBEN 一水なきところに生命なし」の言葉通り、溢れる水は豊かな生命力を感じさせてくれます。

# 院内散歩



当院には温室や多数の絵画など、患者さんに心安らぐひとときを過ごしていただけるようにと、さまざまな施設・装飾が施されています。このコーナーでは数々の憩いのスポットをご紹介します。



創立者の大原孫三郎は、病院の設計理念のひとつに「病院くさくさない明るい病院」を掲げました。

倉敷中央病院には、いくつものアメニティスペースが設けられています。噴水の水音が聞こえ、明るい日差しが降りそそぐ温室。風を感じられるセントラルパーラー、そこで開催されるコンサート。心を和ませてくれるくつろぎの空間に、多くの方が自然と集まってきます。患者さんへの優しい環境づくりは、当院にとって、大切な医療の一環です。

# 皆さまからの おたよりを 募集しています!

倉敷中央病院広報室では、患者さんの体験記や本誌「KNEWS」をお読みになられてのご感想などを心からお待ちしております。

当院で手術や検査をする前後のお気持ちや退院後の様子などを記していただく闘病記や、誌面で知りたい情報等をお寄せいただけますと幸いです。

ご住所、ご氏名、ご連絡先をご記入いただき、下記宛先までご応募ください。

宛先はすべて「倉敷中央病院 広報室」で

## ▶郵送の場合

〒710-8602 倉敷市美和 1-1-1

## ▶FAXの場合

0120-666-339

## ▶メールの場合

koho@kchnet.or.jp

不明な点などございましたら、下記連絡先までご連絡をお願いいたします。

倉敷中央病院 広報室

TEL 086-422-0210 (代表)

## 倉敷中央病院からのお知らせ

平成29年度は、7月17日(月)「海の日」と11月23日(木)「勤労感謝の日」を病院の稼働日としています。つきましては、両日の外来は平常通りの診療といたしますのでよろしくお願いします。

病院長

## 倉敷 いんどこ さがし

このコーナーでは、みなさんに倉敷地域の良さを今まで以上に知っていただくために、いろいろな行事にスポットを当ててご紹介します。



少し気が早いですが、今回は子供から大人まで楽しめる夏の風物詩・倉敷名物土曜夜市を紹介します。

今年で第68回目となる倉敷名物土曜夜市ですが、始まったきっかけはご存知ですか?

戦後の混乱が続き、統制経済が市民生活を厳しく圧迫していた昭和25年4月、倉敷商店街振興連盟総会で事業計画についての協議がありました。夏の催し物として戦前、盛大に実施されていた各商店街での夜市を、全市商店街参加による夜市に統一実施し、娯楽、憩いに乏しかった市民に提供して夏の夜を楽しんでいただくことになりました。第一回は昭和25年7月8日の夜に開かれ「素人演芸会」「素人のど自慢大会」などの催し物もあり、見物客も身動きが取れない程の盛況を極めたといわれています。昭和26年の第2回には、うわさを聞いた県内各市から視察が相次ぎ、次第に県下へと広がったとされています(昭和50年7月31日「倉敷新聞」より)。

今年は以下の日程で開催となります。7月22日(土)には「第47回倉敷天領夏まつり」が行われます。当院の有志も参加しているOH!代官ばやし踊りも開かれます。みなさん、倉敷の夏の夜を彩る土曜夜市に足を運んでみてはいかがでしょうか。

第68回  
倉敷名物土曜夜市

平成29年7月1日(土)～平成29年8月5日(土)  
※毎土曜日(6回)、雨天中止



## 倉敷中央病院の役割は？

当院は地域の診療所や病院から紹介のあった緊急・重症な患者さん、救急搬送された患者さんを中心に、入院や手術など高度で専門的な医療を24時間体制で提供する急性期病院です。症状が安定されましたら、お近くの医院をご紹介させていただきます。紹介元の先生よりご依頼があれば、いつでもフォローいたします。

### 倉敷中央病院



地域医療機関・  
救急を支える病院

### かかりつけ医



専門的な検査や治療  
が必要なときは  
倉敷中央病院へ



病状が安定したら  
かかりつけ医へ

## かかりつけ医を持ちましょう

かかりつけ医を持つことは患者さんにとって大きな利点があります。かかりつけ医は当院の医師と違う視点で病気を管理することができ、十分な時間を取っての相談も可能です。入院や手術など高度で専門的な医療が必要と判断された場合、紹介状を作成されますので当院を受診してください。当院での検査や治療が終了しましたら、当院主治医からかかりつけ医に治療結果を報告しますので、かかりつけ医で継続した治療を受けていただきます。



公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構

**倉敷中央病院**

〒710-8602 岡山県倉敷市美和1丁目1番1号  
TEL.(086)422-0210代 FAX.(086)421-3424  
<http://www.kchnet.or.jp>